

演題：医局会での処方変更実例周知による医薬品適正使用の推進

演題分類：02 病棟薬剤業務

○瀬川和子 河合飛佳 大城里紗 有賀千温 白土枝里子 鹿島彩絵 結城沙英子
植木彩 馬場奈津美 若林よう子 坂井良美 前原大輔 土井本和久 福田朝恵
垣尾尚美 國東ゆかり

兵庫県加古川医療センター 薬剤部

【目的】平成 24 年度診療報酬改定で病院勤務医等の負担軽減及び薬物療法の質の向上を目的として病棟薬剤業務実施加算が新設され、当センターでは平成 25 年 6 月から本加算の算定を開始した。今回、病棟薬剤業務の疑義照会事例を分析し医師への情報提供を積極的に行ったので報告する。

【方法】H24.4～H25.5（病棟薬剤業務開始前 14 ヶ月、以下前期間と略）と H25.6～H27.3（病棟薬剤業務開始後 22 ヶ月、以下後期間と略）の疑義照会事例を調剤時と服薬指導時に分け、それぞれを「用法・用量」「処方設計」「処方提案」などの項目に分類・集計した。この結果は毎月、院内に報告するとともに、頻度の高い事例や注意喚起が必要な事例を抜粋し 3 ヶ月毎に医局会で情報提供している。

【結果】調剤時の疑義照会件数は、前期間は 361 件うち処方変更事例 308 件、後期間は 566 件うち同事例 490 件であった。服薬指導時の疑義照会件数は、前期間は 1268 件うち同事例 946 件、後期間は 3671 件うち同事例 2753 件であった。後期間の処方変更事例で多かった項目は「処方提案」723 件（26%）、次いで「処方設計」「用法・用量」であった。医局会での情報提供内容は、薬物相互作用回避事例や臓器障害時の薬剤選択や用量調節事例、抗菌薬選択に関する事例など多岐にわたっていた。

【考察】調剤時の疑義照会 1 ヶ月平均件数は前後期間で大きな変動はなかったが、服薬指導時の件数は前期間に比べ 1 ヶ月平均件数で 80%超の増加がみられた。中でも「用法・用量」「処方追加」「処方提案」「副作用によるもの」は 2 倍以上の増加であった。病棟薬剤業務の開始に伴い、より初期の処方段階から適切な薬物療法に貢献できるようになったと考えられる。また、医薬品情報は薬剤部ニュース等を通じて院内に周知しているが、院内の実例を医局会で報告し医師に直接アピールすると共に、電子掲示板を利用し継続的に情報提供する事で、今後も処方の適正化に寄与していきたい。